

2017年6月1日

関係各位

千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR セクション**カタールペトロリアム社との間で
液化天然ガスプラントの能力増強に関するスタディの覚書を締結**

千代田化工建設株式会社(本社:横浜市、代表取締役副社長:中垣 啓一、以下「当社」)はカタール国の国営石油会社であるカタールペトロリアム社(本社:ドーハ、President and CEO: Saad Sherida Al-Kaabi 氏、以下QP 社)との間で、同国ラスラファン工業団地内に位置する液化天然ガス(LNG)プラントの Debottlenecking (能力増強)の為に必要な改良を検討するスタディの覚書を締結致しました。本 Debottlenecking は、QP 社が開発計画中の同国ノースフィールドガス田から新たに追加生産される天然ガスの液化処理を目的としたものです。

今回、QP 社の President and CEO である Saad Sherida Al-Kaabi 氏は「世界のガス産業を牽引するカタール国の基盤を更に補強するべく、本覚書により、ラスラファン工業団地内の世界有数の巨大な既存インフラと同工業団地内各種シナジーを活かすことで、QP 社に最小限の投資で LNG の増産を実現できる、という選択肢をもたらすものである。また、カタール国は LNG / Gas to Liquid (GTL) / ヘリウムの生産量及び輸出量において世界第一位であり、QP 社は本拡張計画を以って、カタール国内外におけるガス産業のリーディングポジションを維持することを決定した」と発表しております。

本覚書はカタール国ドーハにあるQP 社本社に於いて、QP 社の President and CEO である Saad Sherida Al-Kaabi 氏及び当社山東理二副社長執行役員他が列席の下、署名されました。

QP 社は2017年4月3日に、カタール国のノースフィールドガス田南部にて輸出向けに日産20億立方フィート相当の新規天然ガス開発プロジェクトを進めていく意向を発表しております。

本スタディは今年末には完了する見込みであり、スタディの結果により LNG プラントの Debottlenecking という選択肢がカタール国にとって最適であることが証明された場合、来年頭にも QP 社は基本設計(FEED)業務を開始することを計画しております。

当社はこれまでカタールで建設された LNG プラント 14 系列の全てに携わり、内 12 系列の設計・調達・建設(EPC)業務を遂行しました。70年代より石油・石油化学・ガス及び水処理設備等の多岐にわたる分野で、現地グループ企業である千代田アルマナエンジニアリング社*とともに現地顧客に対して100件を超えるプロジェクトを遂行してきました。

*千代田アルマナエンジニアリング社: 現地企業のアルマナグループと2008年に設立した当社49%出資の連結子会社

以上

この件に関するお問い合わせ先: IR・広報・CSR セクション 塚本 朋之 / 横田 令子
電話: 045-225-7734 FAX: 045-225-4962
URL: <https://www.chiyoda-corp.com/contact/index.php>